

項目	説明	
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	子宮体癌の黄体ホルモン治療最適化のための分子遺伝学的探索
	研究対象者	2008 月 1 月 1 日～2025 年 2 月 2 8 日の子宮内膜上皮内腫瘍もしくは子宮体癌に対し妊孕性温存目的、もしくは再発治療として黄体ホルモン療法を神奈川県立がんセンターで実施し、包括同意を得られた症例
	研究目的	子宮体癌に罹患した若年患者において、将来の妊娠を目的とした子宮温存治療が行われることがあるが、がんもしくは前癌状態の分子遺伝学的特徴を踏まえた治療の最適化は実現できていない。子宮体癌ないし子宮内膜上皮内腫瘍に対して妊孕性温存治療を行った過去症例に対して 2023 年に改訂された子宮体癌 FIGO ステージングシステムによるリステージングを行い、分子遺伝学的バイオマーカー*による黄体ホルモン療法の個別化戦略の構築を目的とする。*がんを特徴づける分子遺伝学的情報のこと
	研究方法	既に保存している子宮内膜組織検体を用いて、最新の子宮体癌 FIGO2023 に沿って再度病理診断を行う。新たに、p53, MMR, ER, PR といった分子遺伝学的バイオマーカー*の免疫染色や脈管侵襲の判定を行う。分子分類による治療効果や予後の違いを分析する。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西 暦 2 0 2 5 年 2 月 2 5 日 ～ 西 暦 2 0 2 7 年 3 月 3 1 日
	利用又は提供を開始する時期	[X]総長が研究実施を許可した日 [] 西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	[X]試料:	[]血漿、[]血清、[]全血、[]末梢血から抽出した DNA、 [X]病理検体(具体的に記載: 子宮内膜組織検体)、 []尿、[]糞便、[]唾液、[]胸水、[]腹水、[]脳脊髄液、 []毛髪、[]その他(具体的に記載:)
	[X]情報:	[X]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X]年齢、[] 生年月日、[X]性別、[X]既往歴、[X]併存疾患、[X]外来日・入院日・退院日、[X]臨床検査値、[X]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[X]臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、 [] ゲノムデータ、[X]看護記録、[] その他(具体的に記載:)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 婦人科 鈴木幸雄
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	施設名（・氏名） 遺伝子検索について外部機関に委託する可能性があります。決まり次第更新いたします。
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	施設名・所属・氏名・連絡先 婦人科 近内 勝幸 045(520)2222 利用停止のお申し出は 2025 年 12 月 31 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	